

論文審査の結果の要旨

平成26年2月12日

学位論文題目 関節リウマチにおける血清バイオマーカーに関する研究

学位申請者 樋浦 一哉

審査委員 主査 江川 祥子 ㊦

副査 早勢 伸正 ㊦

副査 丹保 好子 ㊦

関節リウマチ (RA) は進行性の多発性関節炎を主徴とする全身性自己免疫疾患であり、発症すると長期間の治療を必要とし、進行すると患者に機能障害を引き起すだけではなく、離職などによる社会的な経済負担も大きい疾患である。近年、RA 患者の多くが発症して 2 年以内に最も関節破壊が進行すること、発症早期に積極的に治療を行うことで、関節破壊の進行を阻止するのみならず寛解導入や維持が可能であることが明らかとなった。したがって、関節破壊が進行していない早期に RA と診断されれば、より早い時期に適切な治療を開始することで患者の予後を大きく改善できる。

申請者は RA 診断ならびに治療上の問題点の解決に寄与することを目的として研究を行なった。その結果、RA 診断において客観的に評価できる血清バイオマーカーの組み合わせを提案し、また早期診断において抗 CCP 抗体が陰性の場合でも RA と確定診断される可能性が高いバイオマーカーの組合せを明らかにした。さらに生物学的製剤であるエタネルセプト (ETN) が週 1 回投与、週 2 回投与ともに同程度の治療効果を示すことを明らかにするとともに、ETN 投与により血清中の TNF- α 産生はアップレギュレーションされるが、TNF- α 活性は ETN により抑制されているために治療効果が現れることを明らかにした。これらの結果は、RA の診断ならびに治療の一助になり得ると考える。以上のことから、本論文は本学の博士論文として評価に値するものと認定した。